

令和元年度 日本大学スポーツ科学部 学部研究費 研究実績報告書

所属： スポーツ科学部 競技スポーツ学科  
 資格： 教授  
 氏名： 益子俊志

研究課題名	<p style="text-align: center;">スポーツの歴史・文化からみた組織論の研究                  -スポーツからみえるチームワークとリーダーシップ・フォロワーシップとは何か、スポーツの意義とは何か-</p>
研究目的及び研究概要	<p>(1) 研究の背景                  ラグビーに限らず、その競技の歴史や文化を知ること、その競技の根源・本質を探ることが出来る。歴史的・政治的背景も重ねて探求することはあまりリンクされてこなかった。どのような背景がスポーツの発展に寄与してきたのか解明する。</p> <p>(2) 研究の目的                  各競技の根源を探求することで、その目的は何なのか。そこから生まれるスポーツの価値を探る。また令和元年に開催されたラグビーワールドカップ日本大会でスポーツの持つ力を社会に認識された中で、今後どのような普及・影響があったかを調査する。</p>
研究実績の概要	<p>スポーツの歴史・文化から見た組織論の研究では、文献検索を中心に識者のヒアリングを行い、武士道・騎士道とは何かフェアプレーの精神とは何か追求し、スポーツを通してリーダーシップとは何か、チームワークとは何かを探求する。また軍隊におけるラグビーの位置づけ価値を探りスポーツのする真意を探る。</p> <p>平成28年度は資料収集し、英国、米国でのラグビーのあり方について検討した。平成29年度は自衛隊のスポーツの歴史を探るため、現地への資料収集を実施し、他国軍隊と自衛隊または旧軍でのスポーツを比較し、組織論とは何かを追求した。平成30年度は各種競技について歴史・文化の違いを比較し(アメリカンスポーツとブリティッシュスポーツの違いなど)、競技の発展、普及について研究した。令和元年度はスポーツと政治の関係の歴史から、スポーツの持つ力が国際関係に与える影響について研究し、そこから見えるチームワーク・リーダーシップとスポーツの意義を考えた。</p> <p>令和2年度は、令和元年ラグビーワールドカップ日本大会によってラグビーの認知度が上がり普及にどのような変化をもたらしたのか調査研究を継続する。</p>